

病院薬剤師交流研修事業を 通して

県立広島病院 薬剤科 高橋宏明

背景

- 第8次医療計画において、各県で地域の実情に応じた薬剤師確保の取組推進が求められている
- 令和6年度診療報酬改定における薬剤業務向上加算の要件として、都道府県における薬剤師確保の取組を実施する部署と連携して出向する体制が必要
- 広島県では、令和5年度より県・病院薬剤師会・薬剤師会・病院協会・広島大学が参加する薬剤師確保のための調査・検討協議会を設立し、地域病院への薬剤師出向モデル事業が開始されている
- 県立広島病院では、この施策の一環として、まず精神科病院との薬剤師交流事業をスタートさせた

交流研修の概要

【研修期間】

令和6年11月5日～11月29日

【研修病院】

瀬野川病院

【出張薬剤師】

県立広島病院 薬剤師歴10年目

交流研修の効果や課題について評価をおこなった

交流先病院の概要

【瀬野川病院】

病床数	312床 (指定病床数85床)
診療科目	精神科・内科・放射線科・歯科
薬剤師数	5名、アシスタント3名

【県立広島病院】

病床数	707床 一般病床657床、精神科病床50床
診療科目	34診療科
薬剤師数	43名、事務2名

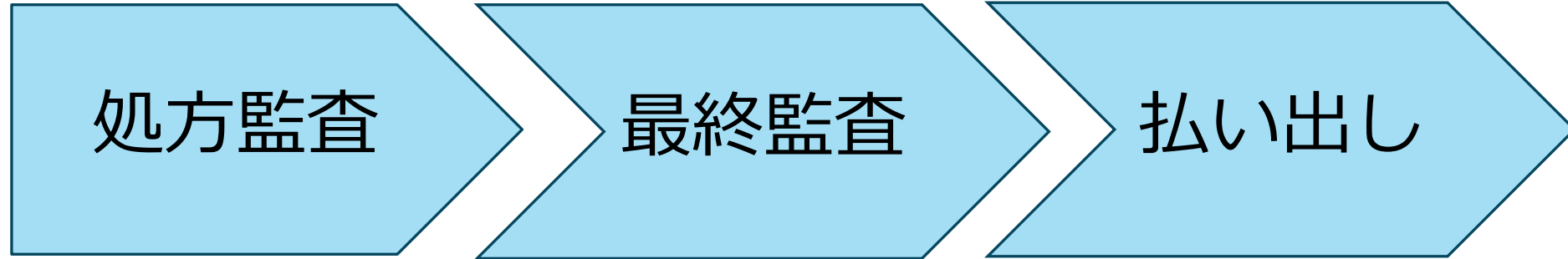
5つの課題の設定

課題	
調剤	・ 精神科薬物療法の知識不足 ・ 他病院の調剤運用を知らない
地域医療	・ 在宅医療の経験がない
病棟	・ 精神科患者の対応経験が不足 ・ 転院先が求めている情報の不足

スケジュール

1週目	オリエンテーション 調剤業務見学 在宅訪問見学
2週目	調剤業務 病棟業務見学 mECT（電気痙攣療法）見学 アルコール依存プログラム見学
3週目	調剤業務 病棟業務 統合失調症プログラム見学
4週目	調剤業務 病棟業務

瀬野川病院の調剤業務の流れ



※大まかな業務の流れは一緒

当院との違い

- 採用薬
- システム
- 監査ポイント
- タスクシフト

医師→薬剤師→アシスタントの
移行がスムーズ

当院のタスクシフト



薬剤師の負担が増えている現状・・・

【原因】
アシスタントの人数不足

地域医療での学び

【特徴】

入院→退院→在宅療養

長期でフォローアップ

反面・・・

自宅に上がる

薬以外の知識

病識の欠如

ハードルが高く
幅広いスキルも必要

入院中から信頼を築いておく必要

地域医療での学び

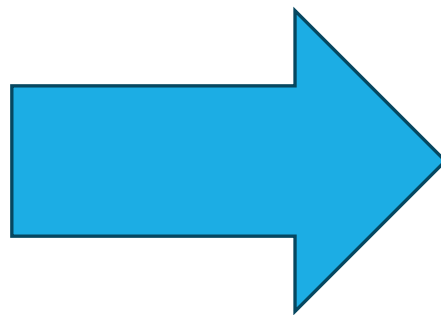
- 在宅療養中の患者訪問に同行

実際の薬剤管理状況

...

本当の意味での
薬剤管理

在宅、施設に対応した
薬剤管理の強化



多職種や薬局との連携を強化し
服薬しやすい環境を整える

病棟業務の特徴

➤入院期間の違い

- 平均在院日数は約124日（当院は約10日）
→患者と長期間関わる

➤状態の違い

- 患者自身が情報を積極的に求めてくる
- 会話不可の状態が当院と異なる

➤薬剤指導

- 患者に合わせた説明方法（丁寧かつ慎重な説明）

服薬指導について

【当院】

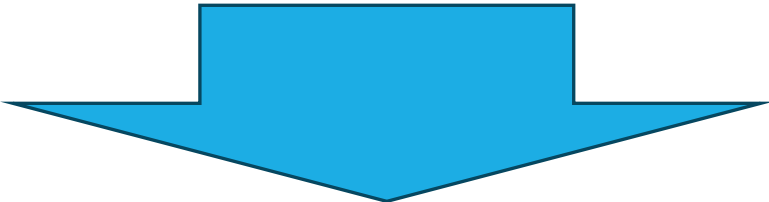
入院期間が短いため、情報の提供が主となることが多い

【瀬野川病院】

患者の話を傾聴（情報を聞き出す）

→信頼性のある程度築き上げた上で薬剤指導

入院が長いから？



当院の薬剤指導にも活かせる！！

薬学的知識の向上

【症例】

統合失調症

【年齢・性別】

20代、男性

【入院契機】

- 20XX年夏頃 SNS上で攻撃的な発言が増加
- 11月Y日 家族が訪問するも「あなたは不倫をしている」など妄想的な発言→会話が成立しない
- 11月Y+2日 母親が広島へ帰省→本人が無連絡で広島の祖母宅へ向かう
- 11月Y+3日午前2時（Day1）祖母宅の別の階の住人宅のチャイムを何度も押し、
興奮状態→警察に保護
- 同日 母親同意のもと、医療保護入院

【既往歴】 なし

【内服歴】 なし

薬学的知識の向上

薬剤	治療経過	薬剤師の介入
Day1 アリピプラゾール12mg	Day1 入院 幻覚妄想強く隔離対応 Day5 病識なし、落ち着きあり部分隔離 Day7 発言が整理される 精神症状なし Day8 会話が成立するようになる	Day2 初回介入 会話がまとまらない。 反応乏しく、しきりに周りを 気にされる。状態確認のみ
Day9 アリピプラゾール24mg	Day9 アリピプラゾール増量、隔離解除 Day12 自身の症状の振り返りができる 退院後の意識通院あり Day15 アリピプラゾールLAI導入検討 本人前向き Day19 今後のことを冷静に話される	Day9 2度目の介入 幻視幻聴の訴えなし 【足のツッパリ感（+）】 症状あるも日常に支障なし Day13 3度目の介入 薬剤増量後も副作用訴えなし 前向きな発言も多くなった
Day21 アリピプラゾールLAI400mg アリピプラゾール12mg	Day21 LAI導入。投与後の異常はなし	Day21 4度目の介入 LAIについて指導 説明に対し良好な理解を得る

結果

課題

調剤

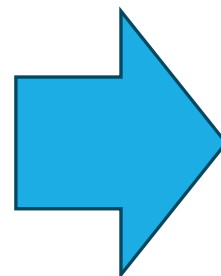
- ・ 精神科薬物療法の知識不足
- ・ 他病院の調剤運用を知らない

地域医療

- ・ 在宅治療の経験がない

病棟

- ・ 精神科患者の対応経験が少ない
- ・ 転院先が求めている情報が不足

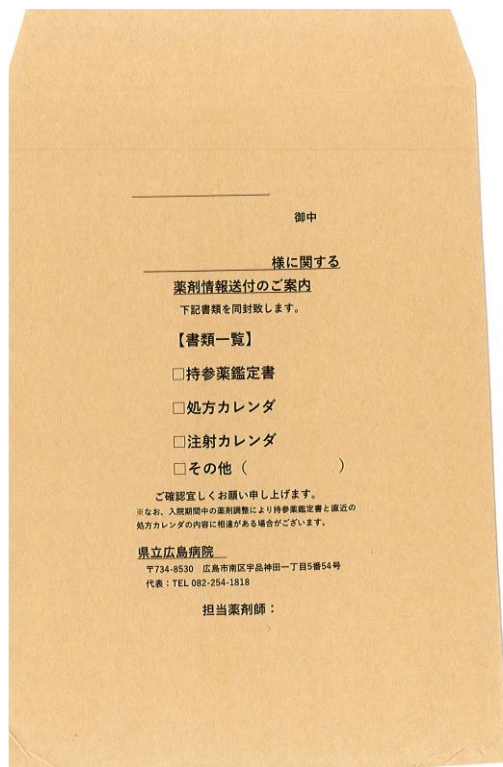


課題は達成できた！

情報提供資料は？ . . .

転院時の情報

【添付用封筒】



【添付書類】

- 持参薬鑑定書
- 処方カレンダー
- 注射カレンダー
- 薬剤管理サマリ（必要時）

テンプレート作成し運用開始

研修を通して得た重要な学び

- 精神科治療薬の役割
適切な薬剤選択で患者の人生が変わる
- 患者との関わり方
精神科患者に適したアプローチ
当院患者への応用が可能
- 在宅医療
退院後に薬剤管理しやすい環境づくり
多職種、薬局連携の強化
- 調剤の運用
タスクシフトの強化

研修前後での変化

- 精神科の薬剤が処方された場合、評価して調剤するようになった
- 専門領域で活躍している薬剤師の姿を見ることで、モチベーションの向上につながった
- 働き方の見直しにつながり、薬剤師として質の高い医療を提供する方法を考えるきっかけになった
- 異なる環境で働いたことで新たな視点が得られ、業務改善にも積極的に取り組んでいる

今後の当院での目標

- 自分自身の更なるスキルアップ
- 薬局との連携強化
- 業務改善の強化
- 若手の育成

研修の振り返りと総括

期間は短かったが当研修は非常に有益な研修だった

出向事業では出向先にも大きなメリットはあるが、出向者にはそれ以上のメリットがあると考える

出向という形が進んでいるが、交換という形も
出向以上にメリットがあるのでは？

ご清聴ありがとうございました